

2006年3月期 第3四半期 決算テレフォン・カンファレンス

質疑応答要旨

日時 : 2006年1月30日
発表者 : 野村ホールディングス株式会社 執行役兼 CFO 仲田正史

- Q1: トレーディング収益について、フィクスト・インカムとエクイティに分けてマンスリーで見ると、この3ヵ月はどのように推移したのか？
- A1: 月次のイメージを申し上げたい。フィクスト・インカムのトレーディング収益拡大の大きな要因として為替のボラティリティが挙げられるが、10～12月で見ると、為替のボラティリティが目立ったのは12月である。従って、フィクスト・インカムのトレーディング収益は12月の収益が10月、11月に比べ大きかった。エクイティは10～12月を通じてマーケットは非常に良い状況にあり、トレーディング収益は10～12月に押しなべていい状況であった。
- Q2: フィクスト・インカムの好調の要因が、為替のボラティリティの拡大とのことだが、MTN とデリバティブの両方が寄与したのか？
- A2: MTN で、為替のボラティリティが上がったことでトレーディング収益が拡大した。
- Q3: 変動的人件費の増加について、国内と海外の大まかな内訳を教えて欲しい。
- A3: 国内の賞与等が収益の増加に伴い拡大した影響が大きかった。

本資料は、米国会計基準による2006年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2006年1月30日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

質疑応答要旨

日時 : 2006年1月30日

発表者 : 野村ホールディングス株式会社 執行役兼 CFO 仲田正史

Q1: 資本政策についてコメントして欲しい。ミレニアムの売却益もあり、野村の資本は05年12月末と比べても、今後更に拡大しよう。余剰資本をどのように利用していくのか、マーチャントバンキングでのパイプラインと、今後の株主還元策を交えて説明して欲しい。

A1: マーチャントバンキングについて、ミレニアムやワンビシのエグジットの影響で、投資残高は減少する。しかし、日本にはリストラだけではなく MBO など、同部門の事業成長の余地はあると考えており、パイプラインもある。今後数年かけ、NPF を中心として投資残高を2,500~3,000億円にするという目標に変更はなく、今後も成長への選択肢を模索し、当社にとって最適な投資機会を検討したい。配当と自社株買いの方針については従来考え方に変更はない。配当については、今年度発表している一株当たりの基準配当は24円だが、一定の経営成績が得られた場合には、基準配当額をベースに配当性向を勘案して配当を決定する。現時点では、具体策な決定はしていないが、この方針に沿って今後検討していく。

Q2: 当社の顧客口座のうち、未稼働顧客、稼働顧客の割合を教えて欲しい。また、第3四半期の国内営業部門の収益の拡大は、未稼働顧客が稼働するようになったためか、或いは、従来からの稼働顧客がより活発に稼働するようになったためか、もう少し具体的に説明して欲しい。

A2: 総合口座が380万口座を越えている。第三四半期の稼働口座数の具体的な数字は手元にはないが、稼働顧客は増加していると考えている。

Q3: グローバル・マーケット部門の業績牽引車となる要因はなにか？また、第3四半期の収益水準は持続可能な水準なのか？

A3: 第3四半期に関しては、株式市場の活況、為替のボラティリティなどがトレーディング収益に寄与した。日本経済、株式市場は、長期にわたって低迷してきたが、反転しており今後は成長が期待されること、個人資産の貯蓄から投資へのシフトが徐々に進んでいること、などを勘案すると、中長期的にも成長が期待される。

Q4: 欧州では積極的に人員を採用していることもあり、コストが嵩み、第3四半期も損失を計上したようだが、欧州の黒字転換はいつ頃達成できる見込みなのか。

A4: 第3四半期の欧州の業績はコストをカバーすることができず、第2四半期対比で悪化し、赤字転落した。第2四半期にあったマーチャントバンキング関連の収益がなかったことが直接の理由である。足元は若干苦戦しているが、状況は改善トレンドにあり、中長期的には当社の収益に貢献してくると考えている。

本資料は、米国会計基準による2006年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2006年1月30日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。